



顔なじみの関係性をつくりたい

梅雨明けが待ち遠しい7月のある日、羽根野台を歩いていると、地元の方たちが、楽しそうに花壇の手入れをしているのを見つけて、思わず足を止めて声をかけてみました。

話を伺うと、この花壇は、羽根野台の自治会活動「羽根野台フラワープロジェクト」の一環で作られた「コミュニティガーデン」という、空き地を活用して作られた花壇で、この日作業をしていたのは、フラワープロジェクトメンバーの皆さん。

「高齢化が進んでいるこの羽根野台で、地域のコミュニティを深めて、災害時や緊急時にお互いが助け合える、顔なじみの関係性をつくりたい」と話してくれました。

ガーデニングが趣味から喜びに

参加者の一人、村野早苗さんは、「元々、ガーデニングが趣味で、町の園芸講習に参加した時に学んだセルトレイでの苗の育て方などを皆さんに伝えたら、すごく喜んでもらえて本当に嬉しかったです。誰かの役に立つ喜びや、必要とされていることが、やりがいにつながりました。」と話してくれました。

また、他のメンバーも、「みんなで見えを出し合って、良い刺激をもらっています」「みんなに会えるのが楽しみ」「若々しくきれいになりました」など、明るくて、チームワークの良いフラワープロジェクトの皆さん。

気の置けない仲間たちと、楽しくおしゃべりしながらする花壇の手入れは、ついつい時間を忘れてしまいます。



地域の方たちの願いを込めた七夕飾りを3号花壇に設置。とても好評でした

との思いから、自治会の役員たちが中心となって平成30年6月に立ち上げたプロジェクトだそうです。

「どうぞこちらへ」と招いてくれたのは、フラワープロジェクトメンバーの梶崎貞夫さん。コミュニティガーデンには、色とりどりの花が咲き、手作りの木製ベンチなども置かれていて、アットホームな雰囲気でもとても居心地の良い空間になっています。

時折、通りがかりの方々が足を止めて「きれいなお花ですね」「ご苦労様」「活気があっていいですね」などと声をかけてくれることもあるそうで、地域交流の場として、地域の方たちにとっても、ここは癒しの場となっているようです。

発起人の一人、羽根野台自治会長を務める中野賢三さんは、「このコミュニティガーデンを通して、老若男女問わず、顔なじみの関係を作れることももちろんのこと、自治会のメンバーが、元気に活動している姿を若い人たちにも見てもらいたい。そして、何かを始めるきっかけにもしてもらいたい。」と、プロジェクトを立ち上げた思いを話してくれました。



4つの「コミュガーデン」

毎月一回、定期的に、連絡会議を開いているという羽根野台フラワープロジェクト。新しい花壇を作る時のデザインや植える花の選定などは、他の花壇を参考にしながら意見を出し合うなど、皆さん研究熱心。

そうして一から手作りで完成させたコミュニティガーデンは、現在、羽根野台の地域内に全部で4カ所。

細かいルールは作らず、毎週水曜日の午前中に、参加できる人だけが自由に集まって、土いじりを楽しんでいるというメンバーは、現在25名ほど。発足当初から参加している方がほとんどで、気楽に集まれる楽しい雰囲気づくりが地域コミュニティを長く続ける秘訣のようです。

次の世代につなげていきたい

フラワープロジェクトの今後の目標は、「当面、今ある4カ所のコミュニティガーデンを充実させて、近い将来、さらに増やして次世代の人たちにつなげていきたい。それが新しい次のチャレンジのきっかけになってくれたら嬉しい。この小さな運動が、やがて利根町全体に広がってくれることを期待しています。」と話す梶崎さん。

夏には、貝殻草、千日草、黄花草スモス、フウセンカズラ、朝顔、サ

地域から発信するまちづくり、みんなが集う町にしたい



羽根野台区民センター前に作られたコミュニティガーデンの1号花壇。「コミュ」には、「コミュニティ」と「コミュニケーション」二つの意味が込められているそうです。



1. 空き家だった羽根野台区民センター隣家の庭に作られた2号花壇。おしゃれなエントランスを抜けると、庭いっぱいのお花が出迎えてくれる 2. とよきやさん隣の空き地を整地し、4号花壇を制作中のフラワープロジェクトの皆さん

ルビアなどが、次々と開花予定のコミュニティガーデン。この手作り花壇に居心地の良さを感じるのには、人と人との繋がりを大切に、誰もが安心して暮らせる住みよいまちづくりを目指して活動するフラワープロジェクトの皆さんの、地元に対する思いが、小さな花のこもしみれませぬ。



問い合わせ ☎ 0297-68-3118 (自治会長 中野さん)